

広報

あきた

目次

- 2 - 3 竿燈まつり / 雄物川花火大会
- 4 中央街区の再開発計画案 / 無料巡回買物バスを運行
- 5 カメラトピックス
- 6 - 7 育児コーナー / 胃がん・子宮がん検診の巡回日程
- 8 - 9 市職員採用試験(中・初級) / 市役所からのお知らせ
シリーズ・花まる絵日記
- 10 - 11 情報チャンネル
- 12 読者の伝言板 / 広報クイズ / ひと

毎月第2・第4金曜日発行 No.1438

平成10年 編集発行 秋田市役所広報課 〒010-8560 秋田市山王一丁目1-1 ☎(863)2222
秋田市ホームページ <http://www.city.akita.akita.jp/>



余裕の扇子さばきをみせる加藤さん

保鉄 加藤流 竿燈人生

差し手・現役最年長

八月四日、いよいよ「秋田竿燈まつり」が始まります。今年には二百三十二本の竿燈が通りを埋め尽くします。年に一度の晴れ舞台、技をきわめた差し手、離子方それぞれの竿燈人生が繰り広げられます。

「差し手で竿燈を持ってなくなったら引退さ」。――。「お多福」の提灯と、保鉄の愛称で親しまれている保戸野鉄砲町竿燈会の加藤光男さん(63歳)。

みっちゃん こと加藤光男さんは、昭和三十七年妙技会の個人優勝者、現役最年長の差し手です。明治四十一年の出竿以来、九十年を迎えた保鉄の歴史の中でも指折りの名手。竿燈を腰に乗せながら扇子をあおいで見せる優雅な演技は、まさに熟練の味です。

「竿燈を始めたのは十八歳。保戸野の左官屋に弟子入りしていた頃だな。当時の会場は土手長町(現在の北都銀行本店前)、一日間だけのまつりだった。親方がえらい竿燈好きで『仕事なんざしなくても竿燈をあげる』なんて言ってた。額の皮がめくれるほど練習したし、体中にできる赤黒いあざは勲章だった。

得意な技は腰。形をピシッて決めるだろ、そして扇子を取り出し優雅にあおいで見せるんだ。観客の目をくぎ付けにできた瞬間、血が騒ぐ。だから竿燈はやめられない。竿燈こげり(ばかの意味)だよ。独自のルートで仕入れた極上の竹を秘伝の技術で仕上げ、太鼓やお離子とて女人禁制の伝統を守り続ける保鉄竿燈会。その昔、職人町であったこだわりの気質が、みっちゃんのような差し手を生んだのかもしれない。

「片手で竿燈を持ってなくなったら引退さ」――。「お多福」の提灯と、保鉄の愛称で親しまれている保戸野鉄砲町竿燈会の加藤光男さん(63歳)。

みっちゃん こと加藤光男さんは、昭和三十七年妙技会の個人優勝者、現役最年長の差し手です。明治四十一年の出竿以来、九十年を迎えた保鉄の歴史の中でも指折りの名手。竿燈を腰に乗せながら扇子をあおいで見せる優雅な演技は、まさに熟練の味です。

「竿燈を始めたのは十八歳。保戸野の左官屋に弟子入りしていた頃だな。当時の会場は土手長町(現在の北都銀行本店前)、一日間だけのまつりだった。親方がえらい竿燈好きで『仕事なんざしなくても竿燈をあげる』なんて言ってた。額の皮がめくれるほど練習したし、体中にできる赤黒いあざは勲章だった。

得意な技は腰。形をピシッて決めるだろ、そして扇子を取り出し優雅にあおいで見せるんだ。観客の目をくぎ付けにできた瞬間、血が騒ぐ。だから竿燈はやめられない。竿燈こげり(ばかの意味)だよ。独自のルートで仕入れた極上の竹を秘伝の技術で仕上げ、太鼓やお離子とて女人禁制の伝統を守り続ける保鉄竿燈会。その昔、職人町であったこだわりの気質が、みっちゃんのような差し手を生んだのかもしれない。